

「野党の方々は昔からあんな感じなのでしょうか？」

平成30年4月4日

●凛としてさんからの質問

西田先生こんにちは。私は今大学生で2、3年ほど前から政治に関心を持ち始めました。そこでご質問なのですが、野党の方々は昔からあんな感じなのでしょうか。と言うのも、森友・加計問題等で貴重な国会の時間を潰したり、国の経済や北朝鮮問題などに関する質疑が少なかったりと、はたから見たら日本をダメにしたいのかなとも思ってしまう。西田先生はどうお考えでしょうか。

●武勇さんからの質問

森友問題は我々国民の切実な問題では全くない。伊丹空港の隣の粗悪な国有地が、一時安く払い下げられた。しかし今は結局国有地に買い戻されて終わっている。政治家の収賄事件でも何でも無い。これが何故か国民生活に直結する政治課題に支障をきたしている。それは、面白おかしい国上げてのドラマとしたからだ。そこには、森友学園の籠池泰典という希代の詐欺師が登場する。彼は、天皇陛下や総理大臣や総理夫人その他有名人の威光を悪用した。嘘八百を平気で語る男だ。そんな男が総理夫人を最も重宝に扱って悪用していた。総理夫人の関わりは安部降ろしを狙う野党や朝日新聞の絶好のターゲットだ。また、それはマスコミにとって視聴率の取れる手放したくない絶好のネタだ。できるだけ長引かせたい森友問題劇場となっている。今益々面白くなってきた。こんなしょうもない問題に野党が国会で集中攻撃したのが功を奏した。財務省理財局がまさかの墓穴を掘った。これでまた国税を使って野党がくだらない時間を浪費するだろう。マスコミも森友劇場で視聴率を維持するだろう。しかし、国民生活に直結する切実な課題とは程遠い。野党やマスコミのすることは全くお粗末である。これを許す国民が馬鹿

だという事だろう。どうでしょうか？

●西田昌司の答え

民主党政権時、私は彼らに非常に厳しい質問を浴びせてきましたが、私は最新の情報をしっかりと踏まえた上で質問を組み立てていましたし、自分の見立てに固執することなく、新たな情報によって自分の見立てが間違っていたとなれば見立てを組み立て直すという柔軟な対応をしてきたつもりです。しかし今の野党の様子を見ると、自分の見立てを覆す新たな情報が出てきてもそれを見ないことにして自分の見立てに固執するという非常に頑迷な態度に終始しています。これでは議論にもなりませんし、貴重な国会の時間が無駄に消費されるという非常につまらないことにしかならないのです。

当初、野党の方々はいわゆる森友事件について、安倍総理や昭恵夫人が森友学園に不当に便宜をはかって国有地を安く払い下げさせたの見立てでした。そのように見立てるのは野党の勝手ですが、しかしその後、そのような証拠が全く出てこなかったのです。また、先日の佐川元理財局長の証人喚問でもそのような事実は全くなかったことが明らかになりました。政権の批判をするのは野党の重要な仕事ですし、それをやらしてもらわなければ困るのですが、今の野党は結論ありきで政権の揚げ足取りしかしていないのです。彼らにはそもそも言葉が通じませんし、思考停止しているので付ける薬がありません。「病膏肓に入る」とでも表現したくなるような状況なのです。

私が野党であれば、安倍総理や昭恵夫人に対しては次のような切り口で苦言を呈したいところです。いわゆる森友事件に関して、法律上は安倍総理や昭恵夫人に何の問題もありませんが、籠池さんとの距離の取り方については今回、非常に反省すべき点があったのではないのでしょうか、という切り口です。今後はそのようなことのないよう、身を引き締めて政権運営しなければなりません。

反訳：ウッキーさん

Copyright：週刊西田 <http://www.shukannishida.jp>